

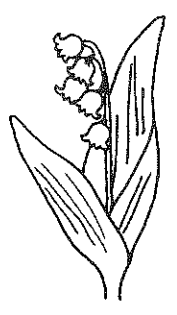
0157
こうして防ごう

栄養管理室 小林由加
病原性大腸菌O157が原因の食中毒が日本各地で起っています。

主な症状は激しい腹痛と血便ですが、重症の場合には腎臓機能が低下して溶血性尿毒症候群を起こし、死にいたることもあります。

予防方法として、食品に火を通す場合には内部まで十分に加熱する、調理後はなるべく早く食べる、調理前には手指や調理器具、食器を洗浄、消毒する、という基本的なことが大切になってきます。

家庭でも、普段から衛生についての意識をもち、食中毒への対策をこれまで以上に真剣に考えるようにしましょう。

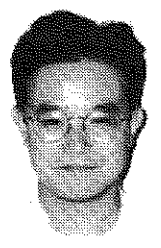


新入職医師紹介
(入職日順)

内科 久米田 靖郎
入職日 平成八年五月一日

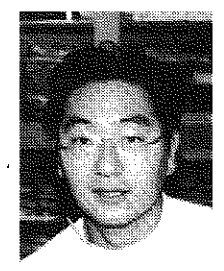
外科 川口 貢
入職日 平成八年六月一日

整形外科 堀 克弘
入職日 平成八年六月一日

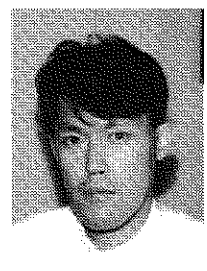


今年六月より、整形外科に勤務することになりました。

平成五年に滋賀医科大学を卒業し、同大学整形外科教室に入局、平成六年からは、大阪労災病院リウマチ病科で勤務してました。まだまだ未熟者で、たよりない所もあるかとおもいますが、よろしくお願ひします。



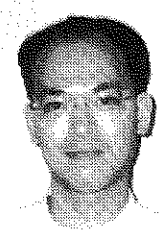
脳神経外科 松島 豊
入職日 平成八年六月一日



眼科 池田 俊英
入職日 平成八年七月一日

伝統ある行岡病院で眼科臨床に励みたいと存じますので、皆様よろしくお願ひ申し上げます。

消化器科 鹿嶽 佳紀
入職日 平成八年七月一日



消化管・肝・胆・脾疾患を中心に学んで来ましたが、未だ四年目のため知識の足りない点が多々あると思います。本人の意志及びQOLを大切に治療を行いたいと考えます。手術可能例では告知する事も多いと思います。また癌性疼痛に対しては早期よりモルヒネ使用も行います。

大学時代は冬は毎日スキー、夏はテニスでしたが今では年に二回程度です。ゴルフは下手ですが始めました。昨年までは週末車で峠攻めにストレス発散していましたが、結婚以来車もRAV4となり、おとなしくなっちゃいました。また写真・コンピューター電気機械関係は得意です。医局の都合上、常勤医としては一年間となりますが、非常勤等にて今後ともお世話になりたいと思います。どうかよろしくお願ひ申し上げます。

訪問看護スタート

編集長 行岡久美子

地域医療を目的とした訪問看護ステーションが行岡病院併設型として六月十九日にスタート致しました。

訪問看護ステーションは、患者さんのお宅に訪問して、生活の援助、身の廻りの世話、医師の指示により治療の促進を行っています。

地域内では寝たきり老人や痴呆性老人、独居老人などのお年寄りが長寿であることを心から喜べる、そんな老人を支えるために区民センターにおいて、福祉委員会、民生委員、保険所、ボランティア、ケースワーカーなどの代表の方々との連系で地域と共に目標に話し合いを進めています。

編集後記

今回から学園の参加も得られ充実に向かって整いつつあり、皆様の原稿も沢山頂きました。これからも御協力をお願い致します。

ひこばえ
ゆきおかニュース

号 院園部
1 岡岡 報
行行広 北区浮田2-2-3
TEL 371-9921

「ターニングポイント」

「Turning Point」

理事長 行岡正雄



「ターニングポイント」、日本訳で

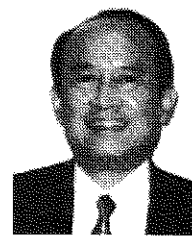
「転換期」と辞書に書かれていた。「節目」とか「曲がり角」と訳してもよいだろう。ところで、日本の医療はこの「ターニングポイント」のまただ中にある。すなわち、高齢化社会の到来は、医療費の著明な増加を招き、このまま進めば日本の医療保険制度は崩壊してしまうといわれている。そのためにいろいろな医療費抑制政策が、矢継ぎ早に打ち出され、これによってほとんどの民間病院は、否応なしに「ターニングポイント」に立たされている。

「ターニングポイント」はまた、現代医療そのものにおいても起こりつつあるようだ。現代では心臓移植に代表される臓器移植は、もはや夢物語ではなくなったし、また遺伝子治療さえ行われ始めている。しかし、そのような医療の発達にもかかわらず我々は、西洋医学の限界に気が始めているのではないだろうか。抗生物質の発達は人類が細菌に打ち勝ったような錯覚を我々に与えた。しかし、MRSAやO157の出現はその様な思いが錯覚であること我々に教えてくれた。又エイズ等の新しい病気も出現している。

この様な「ターニングポイント」に立たされた我々医療人は今、否応なしに変化を求められているようだ。

二十一世紀に生さる

学園長 塩谷弥兵衛



私は平成七年三月に大阪大学医学部を定年退官して以来、行岡保健衛生学園の顧問をさせていただいていました。本年六月に学園長に就任致しました。誠に光栄に存じますとともに、責任の重大さを痛感しております。何とぞ宜しくお願ひ申し上げます。

私は三十年あまり、脳の機能的解剖学を専攻してきましたので、こういうと我田引水のように聞こえるかも知れませんが、来る二十一世紀は脳の時代、つまり心の世紀であると思っています。これは一般社会でいえば、科学技術万能の物質文明の時代から、もつと人間の心を見つめた、精

神文明の時代への移行といえるでしょう。

それでは医学・医療の世界ではどうでしょうか。二十世紀の医学は分子生物学の導入などにより著しく発展し、身体の詳細な構成が分子レベルで解明され、医療面では臓器移植や遺伝子治療も可能となり、また臨床検査の方では、画像診断技術の進歩により、患者さんの脳の中が手にとるように見えるようになりまし。でもこの機械で、患者さんの心の中を見ることができるとはどうでしょうか。

これまでの医療は、患者さんの身体を診ることだけに集中して、精神的な面を軽視してきた傾向があります。身体と精神はもとより無関係なものではなく、気持ちの持ち方が身体の病気に反映すること、は、精神身体医学の示すとおりで、今では脳からサイトカインがでて、身体の免疫機能を制御することも明らかにな

り、病は気からという諺も、ガンの精神療法のメカニズムも医学的に実証されました。今後、超高齢化社会が進み、ターミナルケアや在宅医療の患者さんが増加するに伴い、心の触れ合う医療はますます重要になると思います。

あるホスピスで、とても患者さんに評判のよい看護婦さんがいたそうです。医師にはほかの看護婦さんとの違いが分からなかったのですが、患者さんに尋ねたところ、その看護婦さんは、病室に入ってくるたびに、からだと一緒に心も入ってくる。ほかの看護婦さんは、からだだけが入っていると答えたそうです。

医療はいまでもなく、医師と医療技術者とのチームワークです。このメンバーが、ほんとうに美しいハーモニーを奏でたとき、それは患者さんの心に共鳴するのではないのでしょうか。

変わりゆく病院 変わらない目標

総務課長 藤原裕之

病院の機能評価が取りざたされ、ホテルやレストランが三ツ星印などでランク付けされるのと同様に病院のランク付けがされる時代が、すぐそこにやってくると思います。

そういった意味で、今回の療養型病床群並びに訪問看護ステーションの認可は当院のみならず近隣の方々にとっても非常に価値あるものだと思信しています。

これまでの救急を含めた急性期の患者さんの対応に加え、療養が比較的長い慢性期の患者さんやリウマチなどの特殊な疾患にも対応可能な、いわばマルチホスピタルとしての体制が少しずつ整備されてきました。そういった意味もあって、行岡病院が果たす社会的責任はますます大きく、変

わりゆく医療制度の中で近隣の方々は勿論のこと、医師会

の先生、行政各所等々、この

ような係りを持つかが今後の大きな課題と言えるでしょう。

特に病診連系、病病連系といった行岡病院としてこれまであまり経験の無かった外部へのアプローチも徐々に活発化していくものと思います。

『ローマは一日にして成らず』の諺にあるように一つ一つの地道な積み重ねが思わぬ所で成果を現すことがあります。

それは日々の患者さんへの暖かい言葉であり微笑みであると思うのです。

医療制度がいかに変わろうとも患者さんに喜ばれ、常に暖かい病院作りに専念すること。

医療に少なからずたずさわる者としてまた、事務職として院内の潤滑油の働きをしつかりと自覚し、微力ではありますができる限り、きめの細かい考えや行動ができるよう努力していこうと思います。今以上に患者さんに選んで頂

ける病院となるために・・・

「かわる」

理学療法科 松本 一起

行岡病院の理学療法士の新人として入社し、早四ヵ月が過ぎようとしています。学生だったときと比べ、大きく変わったこと、それは「責任」ということです。確かに学生時代にも患者を評価し、治療も行っていました。しかし、患者に施行する前には、必ず先生の許可が必要でした。つまり、学生時代には、私と患者の間には先生という責任者がおり、監視のもとで評価・治療を行うことができました。

しかし、現在では、私自身が学生時代に指導を受けた先生の立場となり、評価・治療、判断し、責任者となって患者に接していかなければなりません。そのためには、学生時代以上に勉強をし、また先輩の先生あるいは同期の先生に相談し、助言を求めることも

大切で、また、医者や看護

婦からの意見・情報交換も必要です。ときには、患者からも教わることも多々あると思います。これらをおろそかにしないことによって、「責任」が達成され、患者のため、また自分自身のためにもなると思います。今後とも、この「責任」ということを忘れず

に、この心だけは、いつまでも新人としてもつていなければならぬと思っています。

社会に生きること



社会に生きること

人事課 鷺見英紀

まず、私のような今年四月に入職したばかりの者に、「ひこばえ」一号の原稿を書かせていただきましたことに

お礼申し上げます。さて、私は四月に社会人になりました。学生の頃は「社会人」というと、「立派な大

人」であると思っていました。

実際、今まで見てきた方々は素晴らしい「大人」であつたと思います。しかし、今社会に出て働くようになってから感じていることは、人はただ年を重ねることのみによって成長するのではない、ということ

です。今、自分の未熟さががく然としています。常日頃から自分を磨いていかなければならないと、痛切に感じています。現在の社会は、高齢化社会とも、高齢社会とも

言われ、社会全体に様々な影響・良くも悪くも波及しつつあります。また、経済の上では一人ひとりの個人としての価値が問われるようになっていきます。社会人として生きていく以上、このことを考えずには生きていけなくなっていると思います。私自身の人生として確実に、その価値を見定めていかなければならないと思っています。他人の人生を生きている訳ではなく、自分で人生を決めていかなければ

ればならない時に来ていると思うからです。

常に自身を見つめ、周りを見つめ、考えている姿こそが「大人」へとつながる道だと思ふようになりました。すぐには達成できない、あるいは達成できなくても、そうした姿勢でいることが大切だと思っています。私がこの場で成長できれば幸いだと思ひます。

最後に、つたない文章を読んでもいただきましてありがとうございます。ありがとうございました。

オーストラリア 海外研修報告

看護副部長 松浦信子

大阪私立病院協会主催の初めての海外研修が、六月十三日より一週間行われました。行岡からは十名が参加させてもらいました。前半の三日間は、動物達と遊び、雄大なゴールドコーストの海岸を車窓より眺め、シドニーでは、素晴らしい建物の数々に会えま



した。この三日間で、自然を愛し、動物を大切にし、百五十の国の人々が共存している社会が、生活の質を大切にと築かれている事を知りました。

初冬でも太陽に恵まれ（何故か雨の日が多かった）果物とビーフが豊富で、あちこちに珍しい花木が植っており、市内随所の公園が市民の憩いの場になっていました。

後半は、本題の研修、日本語だけ解する私、期待の中通訳の言葉を聞き逃がさないよう緊張の内に聴講しました。看護教育、老人医療、リハビリ、精神衛生、緩和ケア、癌医療の現状等の内容で、講演講義、意見交換、病棟見学と多くの企画で行われました。

医療と看護は、地域性を重視した体制が整備され、個々のレベルを評価し適切なケアとケアが提供されていると報告がありました。

看護卒後教育は、各段階で組織及び評価規程が体制化されています。大学が専門教育を行い資格取得の審査は、国

全体の規程が八段階制定されています。教育機会は平等で三十の大学で二十三の課程が四〜五週の期間で実施されています。又、腫瘍病棟を見学した折、環境を重視した病棟で、QOL最先にケアが行なわれており、病室の素晴らしいさはカルチャーショックに似たものでした。

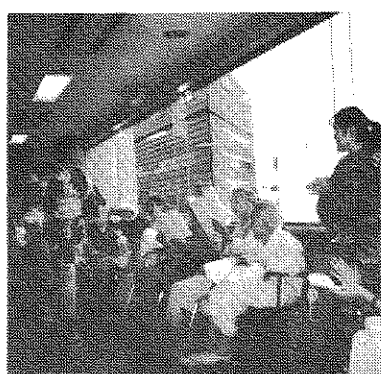
看護、TAFE (Technical And Further Education) 技術と更なる教育のシステムで行われていることに日本の看護教育との違いを学びました。日本も、看護の質が評価される時代となっています。この研修で看護は、人間本来の姿を大切にQOLを考え

た、満足度の高いケアを提供する事と新めて実感しました。

ケアミックス 病棟について

看護部 大字京子

ケアミックス病棟は看護・介護ケアを主体とした病棟です。開設から二ヶ月が経過しました。当病棟では機能低下の防止と日常生活動作の回復を目的とし、お年寄りを寝たきりにしないことを目標に、



職員全員が努力しています。カンファレンス（会議）を行い、個々の患者さんに合った援助を考えています。また月に一回行事を取り入れていきます。アメニティの面では、楽

しきや懐かしさを感じてもらえるような音楽を流して、明るい雰囲気作りに努めています。

具体的には、リハビリの訓練、起立練習、歩行練習、ラジオ体操、また七月からは集団リハビリを行っています。排泄に問題のある方は、三時間ごとにトイレ誘導して、排泄の自立を目指しています。

その結果、おむつがとれた方が四名、夜間のみおむつ使用の方が二名、失禁のなくなつた方が三名おられます。そのほか、母の日、父の日、七夕祭などの行事を行い、「楽しかった」「おもしろかった」などの反応がありました。八月には盆踊りを盛大に行いました。

ケアミックス病棟に入院しておられる方々に、少しでも家庭に近い雰囲気の中で生活してもらえよう、職員全員努力していきたいと考えています。